

平成26(2014)年度 事業報告

(平成27年5月26日理事会議決、6月22日評議員会承認)

I. 事業報告書

総括

沖縄県名護市辺野古の米軍施設の建設によるサンゴ生態系の破壊は、危機的な状況にあり、沖縄県民と名護市民の民意を踏みにじるものとして、許されざる行為が続けられています。それに対する日本自然保護協会の意見書や要望書は、ほぼ毎週のように出されています。また、東北の海岸では、巨大防潮堤の建設が猛烈な勢いで進行しています。各地の自然保護をめぐる現状は、本年度も厳しい状況に直面していると言えます。

2012年8月、ラムサール条約の湿地として登録された福井県敦賀市の中池見湿地において、北陸新幹線の路線が当初の環境アセスメントのルートよりも影響がはるかに大きいと考えられるルートに変更して事業認可されました。日本自然保護協会はこの認可ルートへの変更は容認できないものとして反対の意見を表明してきましたが、2015年3月に事業者である鉄道・運輸機構が、アセスルートを基本にして新たなルートを検討すると発表しました。このことは、鉄道・運輸機構が湿地の保護に正面から取り組むようになってきたことの現れであり、自然保護運動として大きな成果と言えるものになりました。

ラムサール条約の湿地の登録に関しては、群馬県中之条町の芳ヶ平湿原の登録に向けた支援をしてきましたが、2015年度の登録の可能性が高いものとなってきています。このような国際的な動きのひとつに、これまでに取り組んできた宮崎県綾町のユネスコエコパークの登録を契機として、2014年度から群馬県みなかみ町のエコパークの登録を支援する事業に着手しています。また、IUCN日本委員会の事務局や国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）の推進事務局として、国際的な活動と日本の自然保護の現場をつなぎ、日本と世界の生物多様性保全に貢献を続けています。

自然保護憲章制定40周年の節目の年であった2014年度の事業のなかで大きな記念碑となったのは、自然観察指導員講習会が37年の歳月を経て500回に達し、受講者が2万8千人を超えたことと、日本自然保護大賞を創設したことです。自然観察指導員が全国の各地で自然観察の指導者として、また地域の自然保護運動のリーダーとして活躍していることは、日本の自然保護にとって、大きな力となっています。また、沼田眞賞を発展させ、自然保護と生物多様性保全に貢献した、子どもから大人までのすべての個人と団体、企業、自治体の優れた取り組みを顕彰する「日本自然保護大賞」を創設し、多くの応募と各部門のすばらしい活動を表彰できたことは、大きな喜びとなりました。

以下、2014年度の事業活動について詳しくご報告いたします。

公益財団法人 日本自然保護協会
理事長 亀山 章

NACS-Jの長期目標・ビジョン

日本自然保護協会が守りたいものは、暮らしをささえる豊かな自然です。
2050年には「自然や生きものたちと共存する社会がつけられている」ことが目標です。

中期事業目標・2020年目標

2010年の生物多様性条約COP10で決議された愛知目標は、「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する」です。このミッションを私たちも共有し、国や地域行政の政策への科学的根拠に基づく働きかけと提言を行うとともに、現場の問題解決のための活動を行います。

地域レベルでの生物多様性保全を躍進させるため、2011年からの重点事業として「生物多様性の道プロジェクト」を開始し、人づくり、社会づくり、産業づくりの3つの視点で活動してきました。

これらをわかりやすく伝えるため「自然のちからで、明日をひらく」を新しいメッセージとして掲げています。



図：生物多様性の道プロジェクト10年間の活動サイクル

2014年度の重点事業

●「自然のちから」を生かす社会の実現ため、現場の問題解決に注力。

現政権の提唱するコンクリートに頼る「国土強靱化計画」は、自然を大切にし、自然の力に従おうとする自然保護・生物多様性保全の思考とは相容れないものであるとし、何十年も前から続く開発事業や復興復旧事業によって、自然の回復力や自然からの恵みが損なわれることのないよう、新規や突発的な開発問題の増加を見越して、全国の会員とともに東北の巨大防潮堤、辺野古サンゴ礁・普天間基地移設、中池見湿地の北陸新幹線、南アルプスのリニア新幹線問題など自然保護問題への政策提言やモニタリング調査に取り組む体制を強化しました。

特に福井県の中池見湿地に計画された北陸新幹線のルート問題について、地元団体、国際自然保護連合、ラムサール条約事務局と連携し、世界的にも希少な泥炭湿地の生物多様性についてアピールし、事業者、行政とも粘り強く交渉した結果、計画ルートの見直しという大きな成果を得ることができました。



▲2014年4月9日 中池見湿地視察を視察するラムサール事務局長（右から二人目）とアジア・オセアニア担当官（右）



▲2014年10月19日 中池見湿地で開催したチャリティー・トンボ観察会

また、沖縄県の大浦湾・辺野古沿岸でのサンゴ礁、北限のジュゴンの生息する海草藻場の保全においては、地元の団体・グループと協働し、独自調査による提言を行い続けました。高度な政治問題ながら、世界的にも第一級の生物多様性の高い海域の自然保護問題として、政策提言、シンポジウム、講演、報道取材によって、社会へのアピールを行いました。

6月に改正のあった「海岸法」に向け意見提出や、日本の海洋生物多様性保全の制度の改善に関する要望書、東北被災地の沿岸保全のための基礎調査を通じ、全国の海岸の生態系を保全を求め、政策提言や議員、マスコミへのアピールを続けました。



▲2014年7月9日 辺野古の長島の洞窟で、日本初の事例となるサンゴ礁が付着して成長した鍾乳石の存在を記者発表（写真提供：藤田喜久）



▲2015年2月10日 普天間基地移設問題、辺野古沖にコンクリートの巨大アンカーによるサンゴや岩礁の破壊（写真提供：ダイビングチームレインボー）



▲2014年7月 宮城県沿岸の調査。海と陸を分断するように建設される防潮堤。気仙沼市野々下海岸。

●森のちからで「明日をひらく」 ～「森の恵みプロジェクト」で地域を活性化。

赤谷プロジェクト、綾プロジェクト、木曾ヒノキや高知県魚梁瀬の天然スギの保護林化など、先進的な森林管理のモデル事業を核として、森林という自然資源が地域の暮らしを支え活性化させる取り組みとなるような「森の恵みプロジェクト」を加速させています。特に赤谷プロジェクトでは、9月より林野庁、地元団体、日本自然保護協会の新たな取り組みとして、絶滅危惧種であるイヌワシの繁殖のできる生息地を創出し、森林生態系の生物多様性を保全する取り組みを開始しました。また、この取り組みのため、個人・企業からの寄付募集、また機材・技術提供を受け、多様なセクターによる日本の野生生物の生息地保全プロジェクトとして関心を高めることができました。また、カスタネット制作を通じ森の恵みから生まれる資源の地域経済化に取り組みました。



▲赤谷の森に生息するイヌワシの雌（撮影：折内耕一郎/日本イヌワシ研究会）



▲8月4日（株）ニコン、（株）ニコンイメージングジャパンより調査機材の提供

●地域のちからで「明日をひらく」 ～ 人づくりを通して、各地域の自然の価値を発信。

「生物多様性の道プロジェクト」は、2010年の生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）を契機に開始し、会議で締結された「愛知目標」の実現を目指し、生物多様性基本法第13条に明記された地域戦略を実行性のあるものにすることを目指してきました。2014年度は、自治体による戦略づくりの支援や協力、また千葉県下総と福井県中池見湿地で活動を行いました。本プロジェクトの5年間の活動を通じて、問題がおきてから始まる自然保護活動だけではなく、自然が守られる地域づくり、自然を活かした地域づくりも自然保護のひとつの形であることが各地に根付いてきたと考えます。

計画していた「ふれあい調査」の講習会については助成金の獲得が達成できず縮小となりましたが、赤谷プロジェクトの活動地でもある群馬県のみなかみ町では、ユネスコエコパークの登録を目指し、生物多様性保全の地域管理計画や地域の生物多様性保全に向けた総合的な取り組みを推進することとなり、日本自然保護協会の積極的な支援事業が始まることとなりました。

▶2014年10月 みなかみ町の観光拠点「たくみの里」に、赤谷プロジェクトを発信する拠点「森の恵みと学びの家」を開設。



●ともに「明日をひらく」仲間づくり

～自然観察指導員講習会・市民カレッジ・日本自然保護大賞など参加の機会を拡大。

自然観察指導員講習会は3月に第500回目の開催となり、長年の蓄積とたゆまぬ人材育成の歩みをアピールすることとなりました。研修・セミナーの参加者層の拡大を図るとともに、時代に則した内容を盛り込むため、講習会テキストの改訂編集を進めました。

また企業との協働事業の強化や、これまでに接点のない層への一層の普及啓発のため、経営企画室を新設し、各部横断によって新規の取り組み・昨年度好調であった事業を展開しました。

「NACS-J市民カレッジ」は、初の地方開催を含め13回の講座を開催し、ほぼ全てで満員となる人気の講座シリーズとなりました。



▲2015年2月6日
奄美大島で開催した
NACS-J市民カレッジ
「みんなで学ぼう！
生物多様性と世界遺産」



▲2015年3月21～22日 第500回目となる自然観察指導員講習会を東京都青梅市で開催



▲2015年3月8日 日本自然保護大賞の授賞式・活動発表会と記念の上映会を、日比谷コンベンションホールにて開催。6つの部門と沼田眞賞を授与。

また、日本自然保護協会による自然保護の研鑽活動である沼田眞賞を発展させ、「日本自然保護大賞」として新たに6つの部門による応募募集を行い、全国より112件の応募を得て、第1回目となる日本自然保護大賞授賞式を開催しました。さらにメディア・企業協力を通じたイベント出展や会報『自然保護』の表紙写真コンテスト、ボランティア登録制度の構築といった新たな取り組み実施し、日本自然保護協会へのかかわりを深める機会を増やしました。

●「明日をひらく」組織づくり～自然保護NGOのナショナルセンターとしての基盤強化。

安定した自主活動を推進するための支援者拡大、全国の各セクターとの関係強化を目指し、昨年度より進めてきた経営改革は、平成26年7月の理事改選を経て、2020年までの中期事業計画を立案し、迅速な意思決定とより機動力のある事務局体制を構築する作業に着手しました。これまでの5部体制を2部7室体制へ変更し、期中に獲得した組織基盤強化のためのNP0サポートファンドの助成支援を受け、事務局機能の向上やスタッフの能力開発に向けた改善プログラムを実施しました。

生物多様性の道プロジェクト

2014年度の目標		2014年度の成果	
<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性を活かした地域の力を高める人材の養成をスタートさせる。 モデル地域での生物多様性保全の成果を広く発信し、他の地域に波及させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 助成金獲得がかなわず、ふれあい調査の人材養成は進められなかった。 モデル地域で生物多様性地域戦略作りを進めることができた。（宮崎県綾町、神奈川県、福井県中池見湿地） 地域戦略の実行施策としてのツールができ、活用の実績ができた。 重要地域の保全施策を具体化する基本計画の策定を推進できた。 	
テーマ	2014 成果	業務内容	
1	<p>生物多様性を活かした地域の力の育成と地域づくりの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> NACS-J が関わる地域をモデルに支援者を増やした。 新たな自治体との関係を獲得。 	<ul style="list-style-type: none"> 『綾生物多様性地域戦略一いち豊かな綾をめざして一』（発行・綾町）の企画・編集に、綾生物多様性協議会の一員として、一般社団法人てるのは森の会、綾町とともに取り組んだ。 『平成26年度神奈川県生物多様性保全基本方針図作成委託調査報告書』発行（神奈川県受託事業）。神奈川県生物多様性一次地域戦略策定のための県内の重要地域抽出を行った。 NACS-J下総生物多様性アクションプランで市民と選んだ重要地域のカントリーウォークを開催した（10月 新川耕地エリア、11月利根運河エリア）。 ラムサール条約「中池見湿地」の保全・活用計画の策定に、ワーキンググループ委員として参加・協力し、過去のワークショップを活かした基本計画を策定した。 	
2	<p>生物多様性主流化支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> UNDB-J（国連生物多様性の10年日本委員会）寄付金を活用した、企業や自治体、他セクターと協働した生物多様性主流化事業の提案と実施。 COP12（韓国ピョンチャン）でのUNDB DAYの企画実施 NACS-Jの主体的活動として、UNDB-Jによる、生物多様性の主流化活動を支援。 	<ul style="list-style-type: none"> UNDB-J委員会・幹事会・運営部会への参画実施 生物多様性条約締約国会議（COP12）でのUNDB DAYを企画提案し、プログラムディレクターを務め、ブラウリオ生物多様性条約事務局長、ニックセルバ氏（国連開発計画・持続可能な開発部門部長）、マルコス・シルバ（ワシントン条約）氏らのハイレベルイベントの実施、ドイツ、中国などの代表、企業、若者、市民セクターの事例発表会を実施した。 UNDB-J支援事業財務委員会の設置と運営（2回開催） UNDB-Jサポーター企業からの支援を受け、UNDB-J支援事業である生物多様性情報ポータルサイト「生物多様性.com」企画設計、エコプロダクツ展出展、生物多様性の本箱：東北寄贈プログラム企画（福島相馬市松川浦ふれあいサポート、地球の楽好ふくしま支部）等を実施した。 UNDB-Jの基幹となるウェブサイト運営（オフィシャルWEBサイト構築・サーバ移転・自治体ネットワークウェブサイト運営委託事業） 	

経営企画室事業

2014年度の目標	2014年度の成果
2013年度の広報戦略会議・財務チームを集約し、より一層、機動的、戦略的に効果的な経営企画・支援事業を実行する体制づくり。	各項目の成果は下記の通り。

テーマ	2014成果	業務内容
1 財務	<ul style="list-style-type: none"> 適宜適切な資金繰り管理の実施 前年度比約1.5倍の運用益の確保 金融機関との良好な関係の継続 補正予算と次年度予算の適切などりまとめ 	<p>【資金繰り管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 月次資金繰り表の作成と更新 日次資金繰り表の作成と更新 <p>【資産運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本財産、特定資産、余剰資金の資産運用 <p>【金融機関折衝】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係のある計8金融機関との折衝 <p>【予算管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補正予算と次年度予算の作成
2 NACS-J 市民カレッジ	<ul style="list-style-type: none"> 東京を中心に13のテーマ（シリーズ）で計23回実施（※テーマの詳細は別表8を参照） 申込率100%、総受講者数744名 全国での開催に向けた規模の拡大 	<p>【NACS-J市民カレッジ】</p> <ul style="list-style-type: none"> NACS-J市民カレッジの企画と運営
3 イベント	<ul style="list-style-type: none"> アウトドアデিজパン（4/5-6） 恵比寿マルシェ（5/4） サイエンススクエア（7/29-31） 中央区環境活動フェス（9/27-10/5） 木と暮らしのふれあい展（10/4-5） モンベルフェア（11/29-30、3/21-22） エコプロ（12/11-13） 	<p>【イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本自然保護協会の活動を発信するイベントへの出展と企画
4 日本自然保護大賞	<ul style="list-style-type: none"> 新たなアワードとして「日本自然保護大賞」の創設 全国から112件の応募、6つの活動を大賞として、1つの活動を特別賞として選出 全国紙、地方紙をはじめ数多くのメディアで紹介 	<p>【日本自然保護大賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本自然保護大賞の企画と運営 授賞式の実施
5 寄付企画	<ul style="list-style-type: none"> 多様なステークホルダーと協働した寄付企画の実施 	<p>【寄付企画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 切手やハガキ寄付などの積極的な呼びかけ モンベルの日本自然保護協会サポートカードキャンペーンの展開 その他、企業と連携、連動するなどした企画寄付の実施
6 その他	<ul style="list-style-type: none"> 新規法人特別会員の入会（4口） 企業と連携した自然観察会の実施 ボランティア制度の構築と運用の実現 シンポジウム等の運営フォーマット化の実現 組織改善の実施に向けた準備 	<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業や自治体との連携促進 事務局の組織改善業務



▲2014年10月14日 UNDB DAY開催（生物多様性条約事務局主催、環境省、IUCN-J共催、プログラムディレクター：日本自然保護協会）

▶エコプロダクツ2014 UNDB-Jブースにて「生物多様性の本箱」展示出展



▲UNDB-J推薦図書「生物多様性の本箱」の寄贈活動と読み聞かせ活動の支援（福島県相馬市・松川浦ふれあいサポート、地球の楽好ふくしま支部）



▲「生物多様性.com」（運営：UNDB-J）個人のあらゆる行動に対して、生物多様性について考えるきっかけを提供する生物多様性情報ポータルサイト



▲アウトドアデイズジャパンの様子



▲日本自然保護協会モンベルサポートカード



▲NACS-J市民カレッジの様子

保護・研究事業

2014年度の目標	2014年度の成果
① 日本初のイヌワシのハンティング場所創出の計画を実践し、情報を発信する。	① 中池見湿地（ラムサール登録湿地）を貫通する北陸新幹線の路線計画の見直しを実現させた。また、辺野古のサンゴ礁への普天間基地移設計画や南アルプスのリニア中央新幹線計画などの自然保護問題をメディアを通じて全国に広く伝えることができた。
② 市民調査と愛知目標への取り組みの全国運動をさらに盛り上げる。	② 自然を活かした地域づくりの手法としてユネスコエコパークを全国に波及させるとともに、赤谷プロジェクトにおいて自然の恵みを一般に伝えるグッズ開発やイヌワシを指標とした生態系管理を進めることができた。
③ 他団体では解決困難な重要な保護問題に取り組み、全国レベルの問題として発信し、関心層を増やす。	③ 全国調査から里山の生物多様性の劣化を捉えることができ、愛知目標の評価に資するレポートを発行できた。また、愛知目標達成に向けて民間活動の輪をさらに拡大し、新たな保護地域制度「民間保護地域」の国内導入にむけた現状把握と協力体制作りができた。

テーマ	2014成果	業務内容
1	【重要地域での開発問題を解決する】 ・中池見湿地（ラムサール登録湿地）を通過予定だった北陸新幹線ルートについて、自然環境に影響の大きい認可ルートの回避がほぼ決定された。	・中池見湿地：条約事務局長の視察実現(4/8)、チャリティ・トンボ観察会（10/19）、国際湿地保全連合事業部長を招聘した国際シンポジウム（12/21）の開催。新幹線問題の普及パンフレットの作成。国・事業者への要望書提出（2回） ・そうふけばら：一般向け活動報告会の開催（11/24）
	【法制度の改正へ向けたロビー活動】 ・種の保存法の2020年までの300種追加指定に向けた取り組みを開始できた。	・種の保存法について、2020年までの300種追加指定に向けた初年度として、市民提案のサポートとNACS-Jからの提案を提出（11月）。 ・アセス法について検討を開始した。
2 現場の保護問題解決	【重要な沿岸の生態系を守る】 ・海岸法の改正に意見表明をしたほか、公有水面埋立法や環境影響評価法等での沿岸保全に関する課題を示すことができた。 ・辺野古のサンゴ礁の埋め立て計画における自然保護上の問題点を明らかにし、意見書や催事、メディアを通じて発信することができた。 ・東北の復興として計画されている巨大防潮堤の自然保護上の問題点を発信することができた。	・海岸法の改正案に意見提出（5/20）、環境女子会☆のメンバーとして院内集会を開催（5/12）。 ・海洋保護区等について生物多様性条約第12回締約国会議（韓国、10月）、世界公園会議（豪州、11月）でサイドイベント等を開催。 【沖縄のサンゴ礁・海藻藻場】 ・意見書、要望書、共同声明などを発表（19件）、日本外国特派員協会（9/18）などで会見。 ・サンゴ、ジュゴン食痕、水質などの現地調査（PNファンド助成）。 ・シンポジウム（5/31）、勉強会等の主催、沖縄県議会議員に公有水面埋立に関する問題点のレクチャー、シンポジウム等での講演、原稿執筆、取材対応等。 ・嘉陽海岸セットバック式護岸の保全効果モニタリングのための現地調査（12月）。 【東日本海岸】 ・復興道路により失われる湿地の希少植物の緊急移植とモニタリング、湿地保全と地域の復興事業の連携の働きかけ、砂浜調査などを実施した（経団連自然保護基金助成） ・気仙沼市小泉海岸バスツアー実施（9月、かながわ311ネットワークとの共催）
	【各地の地域の保護問題を支援】	・会員からの保護問題の支援要請に対応。内容や状況に応じて、情報提供、現地視察、意見書提出等を実施。 ・地熱・風力・ソーラー等の自然エネルギーによる保護地域等での開発への意見表明。 ・リニア中央新幹線による開発問題について、環境影響評価手続きへの意見、緊急声明の提出、沿線の会員・市民団体からの支援要請に対応。院内集会の共催（9/12）、シンポジウム等（長野県大鹿村、岐阜県中津川市、名古屋市など）での講演・解説、記事執筆、現地視察等を実施。 ・高知県魚梁瀬の天然スギの取り扱い委員会で、天然林の伐採利用の中止と保全指針策定に参画。
4 地域協働型長期プロジェクトの推進	【地域の力を引き出す生態系の協働管理】 ・イヌワシのハンティング場創出計画を開始することができ、新たな支援拡大にもつながった（赤谷プロジェクト）。 ・綾の照葉樹林プロジェクトでのユネスコエコパーク登録支援を通じて、他地域でも新たな自然を活かした地域づくりの手法としての関心を広めることができた。	【赤谷プロジェクト】（受託／自主） ・三者協定による協働事業・赤谷プロジェクトの総合事務局を担当。赤谷プロジェクトの基本的考え方を改定し、「赤谷の森・基本構想2015」を三者で策定した。 ・イヌワシのハンティング場創出のための試験計画を策定。共同記者会見（8月）、伐採1年前モニタリング（現地調査、ビデオ等）を開始した。 ・植生・猛禽類等のモニタリング調査を実施。（環境省受託） ・赤谷の森が発祥であるカスタネットを通じて自然のめぐみを伝えることに着手した。 【綾プロジェクト／照葉樹林研究】 ・綾の照葉樹林プロジェクトで、協議会に参加、2015年の10周年記念イベント準備。照葉樹林モニタリングの実施。 ・綾ユネスコエコパーク専門委員会が保全管理計画の体制づくりに参画。 ・ユネスコエコパーク登録地域、候補地や関連事業でのシンポジウム等で講演（石川県、愛知県等）。 【世界遺産・小笠原諸島の適正管理】 ・南島モニタリング調査を実施し、「ツーリズムによる利用の評価と提言を行った。（東京都受託）
	【市民の力で里山の生態系を調べる】 ・全国調査の結果から、里山の生物多様性の減少傾向をとらえ、レポートとして公表できたほか、博物館・動物園等と展示会・シンポジウムを共催し、一般への普及につながった。	【モニ1000里地調査（自主・受託）】 ・全国で7回の調査講習会を開催。調査データ数は100万件を突破。 ・第2期とりまとめレポートの発行（7月） ・岐阜・東京・北九州にて博物館・動物園と共催の企画展示会を開催 【里モニ】 ・シンポジウム「守りたい、カヤネズミのすむ草原」の開催(6月。多摩動物園) ・民間保護地域大草谷津田生きもの里（千葉市）での市民調査の結果とりまとめ支援と変化傾向評価レポートの発行
	【民間の力で守られた重要地域の価値向上】 ・国内の民間保護地域の動向・今後の可能性をレポートとしてとりまとめ、国際会議等で発信できた。 【生物多様性条約の決議の普及】 ・にじゅうまるプロジェクトの登録団体をさらに増加させ、愛知ターゲット達成に向けた民間のネットワークを強化した	【IUCN-J事務局運営】 ・生物多様性条約第12回締約国会議に参加（10月） ・IUCN-J民間保護地域検討会の開催とレポート「民間保護地域の今とこれから」発行 ・第6回世界公園会議（豪州、11月）での民間保護地域の集会の開催。 【にじゅうまるプロジェクト】 ・にじゅうまる関東ミーティングの開催(3月)・にじゅうまるプロジェクトへの新規登録事業68件。 【ほか国際業務】 ・COP12の主要決議英訳と、IPBESの概要パンフレット作成 ・ウナギのレッドリスト登録を通じた普及啓発活動
5 市民調査の推進	【市民の力で里山の生態系を調べる】 ・全国調査の結果から、里山の生物多様性の減少傾向をとらえ、レポートとして公表できたほか、博物館・動物園等と展示会・シンポジウムを共催し、一般への普及につながった。	【モニ1000里地調査（自主・受託）】 ・全国で7回の調査講習会を開催。調査データ数は100万件を突破。 ・第2期とりまとめレポートの発行（7月） ・岐阜・東京・北九州にて博物館・動物園と共催の企画展示会を開催 【里モニ】 ・シンポジウム「守りたい、カヤネズミのすむ草原」の開催(6月。多摩動物園) ・民間保護地域大草谷津田生きもの里（千葉市）での市民調査の結果とりまとめ支援と変化傾向評価レポートの発行
6 国際情報を活用した国内自然保護活動の推進	【民間の力で守られた重要地域の価値向上】 ・国内の民間保護地域の動向・今後の可能性をレポートとしてとりまとめ、国際会議等で発信できた。 【生物多様性条約の決議の普及】 ・にじゅうまるプロジェクトの登録団体をさらに増加させ、愛知ターゲット達成に向けた民間のネットワークを強化した	【IUCN-J事務局運営】 ・生物多様性条約第12回締約国会議に参加（10月） ・IUCN-J民間保護地域検討会の開催とレポート「民間保護地域の今とこれから」発行 ・第6回世界公園会議（豪州、11月）での民間保護地域の集会の開催。 【にじゅうまるプロジェクト】 ・にじゅうまる関東ミーティングの開催(3月)・にじゅうまるプロジェクトへの新規登録事業68件。 【ほか国際業務】 ・COP12の主要決議英訳と、IPBESの概要パンフレット作成 ・ウナギのレッドリスト登録を通じた普及啓発活動

(保護・研究事業)



▲支援によってイヌワシ試験地に導入した無人ビデオカメラシステム（2015年2月）と、イヌワシのAKAYAロゴの入ったオリジナルカスタネット



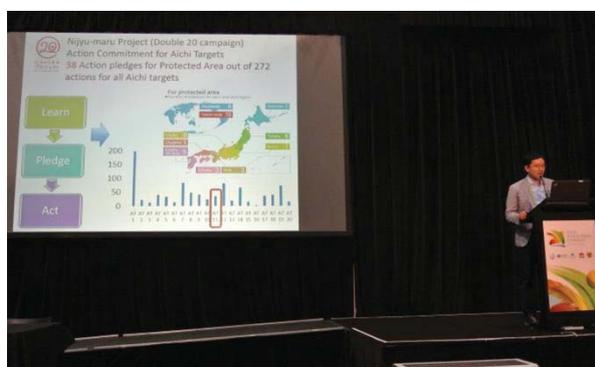
▲2014年12月 中池見国際シンポジウム



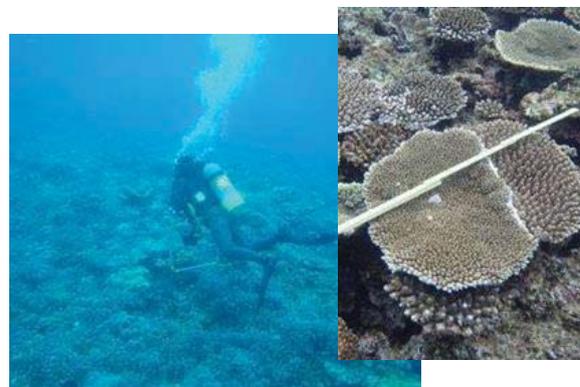
▲2014年4月 赤谷プロジェクトが発足した2004年から継続して支援を頂いている（株）ニコンの社員の方々を赤谷の森にご案内した



▲2014年9月 辺野古海域で新たに発見されたジュゴンの食み跡や、ケネディ大使への書簡等について、外国人特派員協会で記者会見



▲2014年11月 第6回世界公園会議でのプレゼンテーション（豪州）



▲2015年3月 辺野古・大浦湾での現地調査



▲モニタリングサイト1000で会員の皆さんらと調査を継続している調査地のひとつ、鹿児島県漆の里山



▲2015年1月17～19日 北九州市で開催したモニタリングサイト1000里地調査サイト交流会

教育普及事業

2014年度の目標	2014年度の成果
1) 自然観察指導員の継続率向上にむけて、様々な機会に参加意欲をつなげる 2) 講習会事業の広報を強化し、新たな参加者を獲得する 3) 普及事業と各部事業との連携を有機的に深め、催事参加の相乗効果をねらう	・指導員講習会で20代を中心に若い世代の受講者数を増やすことができた。 ・東北での講習会により、復興の核となる人材を養成した。 ・斉観会や自然しらべ等が指導員の活動の支援となった。 ・企業連携により、新たな関わりを開拓し、生物多様性を普及した。

テーマ	2014成果	業務内容
1	【自然観察指導員講習会】 ・市民団体・自治体・企業との共催により、15回の講習会を開催し、737名の指導員を養成した(別表5・初回以降総登録者数28,000名)。通算回数500回を達成し、新規入会者597名を獲得した。受講率は90.6%。 ・1泊2日プログラムで実施し、若い世代、特に20代以下の受講者数を24%(前年比4%増)にすることができた。 ・ラムサール登録を目指す自治体との共催、復興支援の一環として株式会社日清製粉グループ本社の協賛による講習会などを継続した。 【テキストの改訂】 ・2015年度講習会での活用に向けて、テキストの改訂を行った。	・共催12回、自主開催3回、計15回 ・講師会議を1回開催 ・次年度共催先獲得のための共催チラシの作成や広報作業 ・受講者獲得の広報活動(関連Webサイト、メーリングリストなど) ・2015年度講習会からの活用に向け、指導員講習会テキスト改訂編集WG(2回)による編集検討と進行、ポイントをまとめ、執筆を講習会講師で分担して編集作業監修者(植原彰理事)とすすめた。
2	【指導員活動支援】 ・自然のにおいを重視した全国一斉自然観察会を呼びかけ、テーマに則した自然観察の情報20件が寄せられ、2015年6月に行う全国一斉自然観察会に連動させた。 ・メールマガジンを毎月配信し、指導員の活動に役立つ情報の提供をした。また指導員連絡会からの相談や依頼に、資料及び情報を提供し活動を支援した。 ・会員アンケートの指導員からの回答を分析し、要望や活動実態を調査した。 ・Facebookに講習会、研修会開催報告等をアップし、指導員との関係強化に取り組んだ。 ・指導員養成ワーキンググループを開催し、1泊2日の講習会のフォローのための研修会やESD(持続可能な開発のための教育)と自然観察指導員の役割等について検討した。	・パンフレット作成や配布、一般紙への掲載などの指導員制度の広報 ・新指導員への連絡会入会案内やメールでの情報発信 ・再継続を呼びかけるダイレクトメールの実施 ・登録証明書・ネームプレート・腕章・保険の対応 ・指導員向けメールマガジン「しどういん徒然草」(5,011名登録)や公式Facebook等の情報発信 ・連絡会・地域協議会への対応 ・全国一斉かんさつ会「“におい”ではじめる自然観察会」の実施
3	【指導員研修会】 ・「地域の自然を理解する研修会」: プレ研修会としてプログラムの試行を行った。 ・「ネイチャー・フィーリング研修会」: 五感を活かした観察方法や、さまざまな参加者とのコミュニケーションの取り方について学ぶ場を提供した。 ・トンボをテーマにした観察会の手法を学ぶ研修会を開催し、自然しらべと指導員の活動を連動させた。 ・ネイチャー・フィーリング自然観察会を40名のリーダーと協力して開催した結果、約70名の一般参加があった。下見兼勉強会も開催し、指導員に研修の機会を提供した。 【セミナー「観察会の道具箱」】 ・自然観察会に役立つ内容や技術を夜間や半日で学べる機会として開催。各回定員を満了す申込みがあり、計57人が受講した。	・地域の自然を理解するプレ研修会1回(長野・自主開催) ・ネイチャーフィーリング研修会1回(東京・自主開催) ・「トンボをテーマに生物多様性を伝える観察会しよう!」研修会1回(愛知・共催) ・新宿御苑みどりフェスタにてネイチャー・フィーリング自然観察会開催(主催) ・セミナー「観察会の道具箱」「明日から役立つ生態学」「わかりやすい!おもしろい!自然観察会で絵本を使おう」を主催
4	【自然しらべ2014 赤とんぼさがし!】 ・参加者数約2,656名、調査記録2,191件、観察地点のべ1,432カ所。雑誌5誌新聞3紙やラジオ等マスメディアで報道された。 (結果レポートと写真コンテストの結果は2015年7月公表予定) 【シンポジウム「どうする!?ミドリガメ」】 ・2013年度自然しらべの結果と提言をもとに開催、約100名が参加。規制のあり方やペット飼育の今後、防除の進め方などを、環境省担当課も交え議論した。	・テーマ「赤とんぼさがし!」(7~10月) ・調査マニュアルの充実と結果レポートの発行 ・写真コンテストの実施 ・研修会(指導員向け)を実施 ・シンポジウム「どうする!? ミドリガメ ~ペットと外来生物の規制のあり方を考える~」を開催
5	【自然観察路コンクール】 ・小・中・高校生の各部門でそれぞれ最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点を選出した。学校向けにポスターを作成配布し、中学・高校から計853点(前年比2.75倍)の応募数を得た。プレスリリースにより、受賞作品が新聞に掲載された。	・自然観察路コンクールの募集、審査、決定、展示会・WS等実施
6	【企業との連携】 ・支援企業9社の社員や一般親子向けに、観察会やネイチャーツアーを企画・実施し、延べ358名(前年294名)が参加。企画を通じて、生物多様性保全の普及啓発を広く図り、自然観察指導員講習会などへの参加を動機づけた。 ・大崎の森(ソニー・明電舎)では、地域の小学生向けに緑地の自然を紹介するリーフレットの編集に企画協力し、両社が活用している。 ・企業との観察会の経験から、自然観察指導員に企業との関わり方や進め方を会報にて解説し、活動の幅を広げようと呼びかけた。 ・法人特別会員2口獲得。	・支援いただいている企業への自然観察会企画の提案、実施、依頼対応(年間9回)。 ・オフィスビルの緑地におけるモニタリングと生物多様性保全のための管理について、コンサルタントを行い鳥類調査を継続した。
7	【その他教育普及】 ・一般市民向けのシンポジウムやセミナー、各地区連絡会の総会や勉強会、講師派遣・紹介の依頼等に積極的に対応し、NACS-Jの進める自然保護活動の普及、各種事業への参加の呼びかけを行った(別表4)。 ・展示会等の催事にてNACS-Jの活動を紹介し、自然保護の重要性を伝えた。 【ライブラリー管理】 ・図書を検索、活用と保管が容易にできるよう、管理手法を工夫した。	・外部からの講師・委員の派遣・紹介、後援依頼・原稿執筆依頼対応 ・外部イベントでの展示や各種パンフの配布等 ・一般図書報告書ニュースレター等を登録管理、閲覧サービス ・本棚の一斉整理



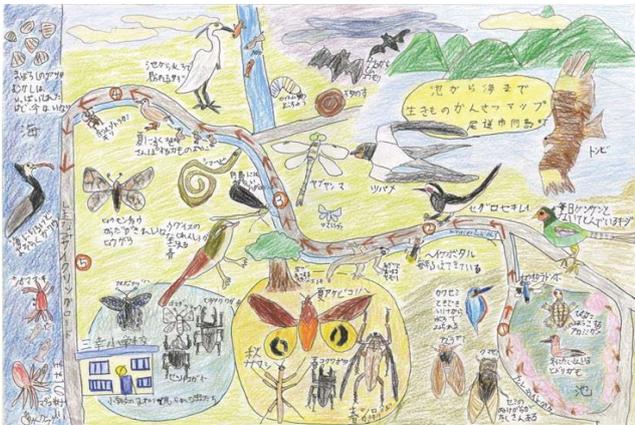
▲2014年7月 三陸復興国立公園碓石海岸（岩手県大船渡市）にて指導員講習会を開催（協賛 日清製粉グループ本社）



▲2015年3月 第500回にして28,000人に達した指導員講習会での野外実習 東京都青梅市にて



▲2014年11月 ノビアグリーン財団「森で遊ぼう！親と子の環境教室」に企画協力 国立科学博物館付属自然教育園にて



▲第31回自然観察路コンクール 最優秀賞作品（小学生の部）
「池から海まで生きものかんさつまップ」 村上八雲さん（小学2年）



▲自然しらべ2014 赤とんぼさがし！ のポスター。全国のビジターセンターや小学校などに送付、掲示してもらい参加を呼びかけた。



▲2015年2月 観察会の道具箱「わかりやすい！おもしろい！観察会で絵本を使おう」 日比谷公園にて



▲リーフレット「きて、みて、かんじる おおききの森」（発行・ソニー・明電舎）を企画編集し、地域の住民の方や小学生などに配布

広報・編集事業

2014年度の目標	2014年度の成果
①メディアを使い分けてNGOならではの情報発信力を高める。(会報発行は現会員向けに維持。webは予算の増強、フェイスブック、スマホ等新メディア対応も。) ②過去の発信情報を資産化し、NACS-J未接触のユーザーを増やす。(NACS-Jウェブマガジン、ソーシャルメディア) ③NACS-Jのブランドイメージ、VI,CIの管理	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性情報の即応的発信、コンテンツの幅広いジャンルからの発信は継続できた。 ・収入源としては低調だったが、会報フォトコンによる双方向コミュニケーションの開拓と制作費削減を行い、NACS-Jの認知度や生物多様性保全活動の認知度の向上に貢献した。

テーマ	2014 成果	業務内容
1	NGOの強みを活かす情報発信	<p>【会報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会報『自然保護』6号を各約15000部、遅滞なく編集・発行。製作費・発送費を削減しながら、オールカラーを継続し、読者満足度を高めた。特に、特集「イヌワシが舞う森を未来に」が好評を得た。 <p><特集></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然かんさつ会をはじめよう！(第539号、2014年5・6月号) ・ANNUAL REPORT NACSJ年次報告 2013.4-2014.3(第540号、2014年7・8月号) ・トンボの不思議をさがしに(第541号、2014年9・10月号) ・わからないことだらけの外來種！(第542号、2014年11・12月号) ・愛知ターゲット中間評価発表！(第543号、2014年1・2月号) ・イヌワシが舞う森を未来に(第544号、2014年3・4月号) <ul style="list-style-type: none"> ・第1回会報フォトコンテストを開催。全国から102名、280点の応募。5点の優秀賞(表紙掲載)と5点の入賞(ポストカード賞)、6点の佳作を選考。9月号より表紙掲載。 <p>【WEBサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NACS-JWEBサイトは昨年比でユーザーセッション数が3%増の34万9344人、PVも3%増の834,381となった。 ・SNSが好調でtwitterフォロワーが13%増の3166人、Facebookいいね！が60%増の4009人となり、投稿リーチ数は44万230件から125万347件となり約3倍となった。 ・NACS-JのWEBマガジン&オフィシャルオンラインショップ、「しぜんもん」本店を開設。自然保護の関心層を広げるための一般関心の高い話題の提供とともに、先行のYahoo!店とともに自主サイトによるクレジットカードでの販売と寄付の体制整備を完了。セッション数約15600、PV約30,000。 ・生物多様性情報の発信力支援のため、国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)のウェブサイト発信を引き続き担当。
2	NACS-Jメディアを通じた企業・団体パートナー拡大	<p>■記事制作 (会報・WEB共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然保護の専門性を活かしながら、一般読者の興味を引く特集を制作(会報・web共通) ・会員専用記事、WEBマガジン記事など読み手のニーズを踏まえた記事構成と編集・執筆技術の向上 ・雑誌編集の外部エキスパートと特集の切り口や展開を検討する会報ワーキンググループを開催(年6回) ・会報表紙フォトコンテストの企画・開催。 <p>■会報発行 (印刷・発送)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員向け情報誌の遅滞ない発行 ・年6回(隔月)発行、36頁×6号 ・7/8月号の活動レポート特集号化 ・専門性を活かした広告営業 <p>■オフィシャルWEBサイト運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフィシャルサイト...組織情報のディスクロージャー、活動報告、参加・寄付の呼びかけ。 ・twitter、Facebook、メルマガ...サイト情報の発信・オフィシャルサイトへの誘導。 ・サーバー管理、HTML外注・システム改善マネジメント <p>■NACS-Jウェブマガジン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般向けにタッチングポイントを増やす、NACS-Jウェブマガジンの運用。 ・資料集/フィールドガイド/会報など既存資料の有償ダウンロード、販売システムの運用、WEBからのクレジットカード寄付システムの構築 ・会報等資料の電子書籍化 ・WEBサイト広告収入の開拓。 ・インターネット有料広告の出稿。 <p>■国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)のWEB発信(生物多様性の道プロジェクト環)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NACS-JやIUCN-Jウェブサイトほか、NACS-Jに集まる生物多様性関連情報の提供と普及を目指し、戦略的な情報展開を提案、運用。
3	ブランドイメージを定着させる広報・PR	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトドアデিজパン、エコプロ展等で、情報発信業務のサポーターとなる企業等の開拓を試みたが、大きな支援先の獲得には至らなかった。 <p>■ロゴVI/CI</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年度に新設したキャッチコピー、ロゴの普及管理



▲会報『自然保護』 539号～544号

会報『自然保護』表紙フォトコンテスト

自然にまつわる写真大募集!!

日本自然保護協会は、美しい自然を守り、豊かな自然を未来に引き継ぐため活動しているNGOです。会報『自然保護』誌を発行しています(読者約2万人)。その会報誌に掲載する写真大募集です。日本国内で撮影された自然風景や動物の姿、自然保護活動の現場など、自然に関心のある皆さんの写真、ぜひお送りください。自然の魅力を写真でご覧ください。

日本自然保護協会 表紙フォトコンテスト 募集要項

- 募集期間: 2014年10月1日(水)～2014年11月30日(日)
- 募集対象: 日本国内で撮影された自然風景や動物の姿、自然保護活動の現場など、自然に関心のある皆さんの写真
- 応募資格: 個人・法人問わず、20歳以上の日本人(外国人は可)
- 応募方法: 写真1枚につき、A4判横置き(縦向き可)の写真好意で応募してください。応募用紙は、会報『自然保護』誌の巻末に掲載されています。応募用紙は、日本自然保護協会事務局までお送りください。
- 応募料: 応募料はかかりません。
- 賞品: 入賞した方には、賞状と賞品(写真集、カメラ、望遠鏡、双眼鏡、カメラバッグ、カメラレンズ、カメラアクセサリー等)を贈ります。入賞した方には、会報『自然保護』誌に掲載させていただきます。
- 発表場所: 日本自然保護協会事務局(〒104-0033東京都中央区新富1-16-10)にて発表します。
- お問い合わせ: 事務局 TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112 E-mail: info@nacs.jp

▲会報『自然保護』 第1回表紙フォトコンテスト

▲WEBマガジン+WEBショップ「しぜんもん」

▲日本自然保護協会 WEBサイト

▲日本自然保護協会 Facebook

管理事業

2014年度の目標		2014年度の成果
<ul style="list-style-type: none"> ・他部と協働し、会員・寄付者獲得の基盤づくりを進める。 ・Webと連動した新たな収入基盤整備を広報と検討し実現化を進める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・組織改善に向けて事務局として着手することができた。 ・販売収入改善のさまざまな取り組みを始めることができた。
テーマ	2014成果	業務内容
1	<p>【事務局運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種規程や制度の見直しを進めた。 ・助成金を獲得し、組織診断の職員アンケート、全員参加のワークショップを実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤理事・シニアスタッフに関する検討 ・組織変更に伴う規程の改訂 ・Panasonic NPOサポートファンドによる組織診断の実施
2	<p>【収入基盤整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体・法人特別会員向けのパンフレットは最新の情報に修正した組織概要と合わせて配布。 ・定期発送等によりパンフレットの配布に努めた。 ・会報奥付で寄付者を紹介し、支援感の向上を図った。 <p>・非会員寄付者から寄せられた寄付は51件・55万円。</p> <p>・かつての高額寄付者（個人）から寄せられた寄付は52件・460万円。</p>	<p>【個人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未入会者向けDMの実施→中止。高額寄付者DMIに変更 ・期限切れ会員への再入会呼びかけDMの実施 ・ビジターセンター等へのパンフレット定期発送 ・入会パンフレット増刷 <p>【団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの作成・配布 <p>【法人特別】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの作成・配布 ・概要パンフレットの作成 <p>【寄付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非会員寄付者へのDM ・かつての高額寄付者（個人）へのDM ・寄付企画、高額寄付、募金箱設置への対応
3	<p>【システム基盤整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末で通販業務委託を終了して自主運営を開始し、収支をマイナスからプラスに転換させることができた。 ・インターネット販売への販路拡大により、会員以外からの受注を広げることができた。 ・電子書籍販売にも販路を広げ、デジタルコンテンツの整備を開始。 	<p>【刊行物管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受注管理 ・刊行物案内パンフレットの作成 ・刊行物・会報購読DMの実施 ・WEB決済システムを利用したE-shopでの販売開始

保護交渉事業

2014年度の目標		2014年度の成果
<ul style="list-style-type: none"> ・長野・木曾ヒノキ保護林のプロジェクト化への誘導 ・北海道大雪山/日高山脈保護林の多様性確保 ・尾瀬・至仏山保全への道すじづくり ・20年を経た「保護林制度」への多様性と修復のしくみの組み込み 		<ul style="list-style-type: none"> ・行政の各種会議への委員参加や個別交渉、研修講師、マスコミへの情報発信を通じて、具体的な保護を進めることができた。
テーマ	2014成果	業務内容
1	<p><施策の全体方針への多様性方策の具体的導入></p> <ul style="list-style-type: none"> ・林野庁の森林林業施策に対する、多様性保全機能の付加と、温暖化対策と多様性保全策の統合提案を行った。 ・国有林の「保護林」制度の改訂による、保護地域としての機能向上に着手できた。 ・環境省によるエコツーリズムは国立公園活用事業として特記することと、認定地域でモニタリングが実施されるようにするための改良に寄与した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・林政審議会 ・農水3審、地球環境合同部会(農水省) ・林野庁保護林見直し有識者会議(林野庁) ・これら会議の議題設定に関する林政課との個別会合 ・エコツーリズム推進検討会(環境省ほか4省庁共管) ・自然ふれあい推進室との個別会合
2	<p><保護地域の新設・管理計画作り></p> <p>【木曾】木曾ヒノキを中心とする温帯性針葉樹林保護地域の区域設定と「保全管理計画書」の作成に参画した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・木曾温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた検討委員会、管理基本計画策定専門部会（中部森林管理局）
3	<p><保護地域管理></p> <p>【小笠原】外来樹種排除事業、都道改良事業の報告書点検と事業への助言</p> <p>【富士山、丹沢】緑の回廊への評価と助言を行うことができた。</p> <p>【尾瀬】入山口の使用方法変更と、至仏山植生修復事業に向けた報告書の作成、問題ある登山道の迂回に向けた事業提案を進めることができた。</p> <p>【仙台海岸ほか】防潮林再生や希少種生息地保全の両立等への提案を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原諸島生態系保護地域保全管理委員会アドバイザー会議（関東森林管理局東京事務所） ・富士山・丹沢緑の回廊モニタリング委員会（関東森林管理局） ・尾瀬適正利用小委員会（環境省関東自然保護事務所） ・至仏山保全対策会議、至仏調査専門委員 ・東北森林管理局計画保全部との個別会合
4	<p><再生可能エネルギー問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・トムラウシ地熱発電計画の撤回 ・風力発電所の先行アセス事業候補地について希少猛禽類からの点検を行った。 ・風力発電へのバードストライク回避のためのレーダー開発への助言 ・風力、地熱開発の計画段階での希少大型猛禽類生息地、自然湧出温泉源等の回避 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性委員会（北海道森林管理局） ・先行アセス事業検討委員会（環境省環境影響評価課） ・希少猛禽類等衝突リスク評価システム開発実証検討委員会（環境省環境影響評価課） ・森林施業と希少種保護に係わる調整委員会（関東森林管理局）
5	<p><国有林モデルプロジェクトの展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルプロジェクトとしての全体像を作ることができた。 ・イヌワシ・クマタカ繁殖地保全と、生息環境向上策を作り検討した。 ・地域活動を作り出すことができた。 ・赤谷、綾、木曾ほかのモデルプロジェクトの統一的活用策を提案できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤谷プロジェクトに関する各種会議への出席（企画運営会議、調整会議、モニタリング委員会、猛禽WG会議、環境教育WG会議、溪流環境復元WG会議） ・上記会議の議題設定に関する関東森林管理局との個別会合と、本庁国有林野部との定期会合
6	<p><研修講師></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政職員に生物多様性保全の視点を伝え、実践を訴えることができた。 ・環境アセスメント審査の際の留意点を伝えることができた。 ・自然保護NGOの存在意義と保護活動の難しさを広めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修等への講師対応（林野庁、環境省、水資源機構、自治体、NGO等）
7	<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各案件にて適宜助言、発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省直轄の環境交流拠点（環境パートナーシップ・プラザ）事業に対する評価と、場作りへの助言 ・取材対応及び当会のテーマ（再生可能エネルギー問題、イヌワシ保護、防潮林再生問題、尾瀬、木曾）の持ちかけ



▲会報に同封した通販カタログ（上）
としぜんもん SHOP&寄付（左）



▲木曾のヒノキ自然林復元のための協議（過去の伐採地からみた御嶽山）



▲守りたい、400年以上経ったヒノキの巨木

公益法人としての社会責任

●組織統治の見直し

経営改革として会の目的や長期目標を根本的に見直し、またそれを実現させるための事務局組織と意思決定の見直しにも着手しました。今後3年を目途に、ステークホルダーとの対話を持ちながら目的に沿った意思決定を行い実行できる組織作りを目指します。

●障がいのある方の就労支援

当会の会報等の印刷、在庫管理、発送は、社会福祉法人東京コロニーと委託契約を結び行っています。本事業を通じ、障がいのある方の就労を支援しております。

●持続可能な資源調達

会報『自然保護』に使う紙は中越パルプ工業（株）の「里山物語」を利用しています。この紙は間伐材を最大限利用し、また売上の一部が里やまの生物多様性保全活動に還元されています。

●事務所の省エネ

クールビズやウォームビズ、冷暖房や照明のこまめな節電、裏紙や使い古し封筒の積極的な利用、ゴミの分別など、省エネルギーの推進に努めています。

●働きやすい職場作り

育児や介護など職員のさまざまな勤務環境に対応すべく、規程を整備するとともに短時間勤務や勤務時間の制度を活用して、働きやすい環境を作るよう努めています。

●男女共同参画社会への貢献

職員25名中女性は半数以上の13名、管理職の女性は約3割です。また理事改選にあたってはジェンダーバランスを重要項目として検討しました。

II. 財団法人の記録

1. 役員等の異動

平成 26 年 6 月 12 日	退任	評議員／中静 透
	就任	理事 10 名 監事 1 名
平成 26 年 6 月 30 日	選任	理事長／亀山 章 代表理事／吉田 正人
	就任	顧問 4 名 参与 18 名
平成 26 年 7 月 2 日	就任	評議員選定委員 5 名
平成 26 年 11 月 19 日	退任	理事／嶋田 実名子

2. 会員数 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

(1) 普通会員	() 内は昨年度との差異	
個人会員	11,361 人	(-158 人)
ファミリー会員	2,505 人	(-63 人)
ユース会員	85 人	(+9 人)
(2) 団体会員	348 口／225 団体	(-18 口／-2 団体)
(3) 法人特別会員	54 口／40 法人	(-1 口／-3 法人)
(4) 寄付サポーター	989 人	(+224 人)
(5) アクションサポーター	8,501 人	(-1,837 人)
合 計	23,843 人・口	

3. 会議

(1) 理事会

・6月3日 通常理事会／(議決)	第1号議案	2013(平成25)年度事業報告及び財産目録等
	第2号議案	評議員会の開催について
	第3号議案	規程類の改訂
	第4号議案	自然保護憲章基金の活用
	第5号議案	評議員選定委員会の設置
・6月30日 臨時理事会／(議決)	第1号議案	代表理事、執行理事、理事長、専務理事、常務理事の選任
	第2号議案	会長、顧問、参与の選任
	第3号議案	常勤の理事の報酬
	第4号議案	規程類の変更
・8月18日 臨時理事会／(議決)	第1号議案	規程類の変更
・11月7日 臨時理事会／(議決)	第1号議案	資産運用規程第6条(5)対象の運用について
・2月6日 臨時理事会／(議決)	第1号議案	2014(平成26)年度補正予算について
	第2号議案	臨時評議員会の開催について
・3月10日 通常理事会／(議決)	第1号議案	2015(平成27)年度事業計画および収支予算
	第2号議案	規程類の改定について

(2) 評議員会

・6月12日 定時評議員会／(議決)	第1号議案	2013(平成25)年度事業報告・決算の承認
	第2号議案	規程類の改訂
	第3号議案	理事・監事の選任
	第4号議案	評議員選定委員会の設置
・3月25日 臨時評議員会／(議決)	第1号議案	理事の補選について

(3) 委員会等

- ・常勤理事報酬に関する理事ミーティング(4/14)
- ・シニアスタッフ・給与等のあり方、常勤理事に係る規則の見直しミーティング(4/22)
- ・理事改選に係る検討会(4/28、5/23)
- ・自然しらべ2014 赤とんぼさがし!企画会議(4/12)、学術協力者会議(12/5)
- ・会報ワーキンググループ(5/26、7/22、9/19、11/17、1/23、3/23)

- ・ UNDB-J 支援事業財務委員会 (6/10)
- ・ 指導員講習会テキスト改訂ワーキンググループ (7/21、8/10)
- ・ モニタリングサイト 1000 里地調査／検討委員会 (9/4、1/29)
- ・ 資金運用検討ワーキング (10/21)
- ・ 自然観察路コンクール審査会 (11/19)
- ・ 日本自然保護大賞選考委員会 (12/1)
- ・ 参与会 (12/26)
- ・ 自然しらべ 2014 赤とんぼさがし！写真コンテスト審査会 (1/16、2/15)
- ・ 指導員講習会 講師会議 (2/8)
- ・ UNDB-J 支援事業財務委員会 (2/25)
- ・ 沿岸保全管理検討ワーキンググループ (4/11、9/26、1/16)

4. 意見書等の公表

- (1) 意見書・要望書等 (代表者名で提出)
各事業で取り組んでいる問題に対し、27 件の意見・提言を提出した。(別表 1)
- (2) 声明・パブリックコメント等 (主に業務担当責任者名で提出)
各事業で取り組んでいる問題に対し、21 件の声明・パブリックコメント等を提出した。(別表 2)

5. 委員の派遣

各事業で取り組んでいる問題・テーマに関わる 37 件の委員会等に役職員を派遣し、施策の転換や事業の見直しの検討に参画した。(別表 3)

6. 印刷物の発行

- (1) 会報『自然保護』
 - ・ 第 539 号～第 544 号 (年 6 回、奇数月発行、36 頁、各号約 15,000 部)
- (2) 報告書・資料集
(なし)
- (3) 受託事業報告書
 - ・ 平成 26 年度南島自然環境モニタリング調査委託報告書 (東京都小笠原支庁)
 - ・ 平成 25 年度三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画 (赤谷プロジェクト) 推進事業報告書 (関東森林管理局)
 - ・ 平成 26 年度神奈川県生物多様性保全基本方針図作成委託報告書 (神奈川県)
 - ・ 平成 26 年度生物多様性条約第 12 回締結国会議決定事項の普及啓発等業務報告書 (環境省)
 - ・ 平成 26 年度モニタリングサイト 1000 里地調査報告書 (環境省自然環境局生物多様性センター)
- (4) パンフレット等
 - ・ 組織概要パンフレット (1,000 部)
 - ・ 個人会員入会案内パンフレット (7,500 部)
 - ・ 刊行物通販パンフレット (19,000 部)
 - ・ 第 31 回自然観察路コンクールパンフ (20,000 部) ・ ポスター (1,000 部)
 - ・ NACS-J 自然観察指導員講習会 2014 年度開催一覧チラシ (10,000 部)
 - ・ NACS-J 自然観察指導員講習会個別の開催案内チラシ (計 2500 部)
 - ・ NACS-J 自然観察指導員再登録のお願いパンフ (4,500 部)
 - ・ NACS-J 自然観察指導員講習会の共催お誘いチラシ (500 部)
 - ・ 2014 年度全国一斉自然かんさつ会 エントリー募集ちらし (15,000 部)
 - ・ 2015 年度全国一斉自然かんさつ会 エントリー募集ちらし (14,000 部)
 - ・ 「自然しらべ 2014 赤とんぼさがし！」調査マニュアル (46,000 部)、ポスター (1,500 部)
 - ・ モニタリングサイト 1000 里地調査ニュースレター第 13 号、第 14 号 (各 1,500 部)
 - ・ モニタリングサイト 1000 里地調査 第 2 期とりまとめ報告書 (800 部)
 - ・ (活動資料) “10 万年の歴史が息づく・ラムサール条約登録湿地中池見湿地～その自然を未来に残すために～” (1,000 部)
 - ・ ご寄付のお願いリーフレット・絶滅危惧生物 (15,000 部)

別表1. 意見書・要望書等の提出 (協会代表者名で提出、カッコ内は提出日、提出先/連名団体)

- ・鳥獣保護法改正に関する要望書 (4/8、環境大臣/民主党)
- ・「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境監視等委員会」の公開の要望書 (4/23、沖縄防衛局/沖縄・生物多様性市民ネットワーク)
- ・リニア中央新幹線環境影響評価書に対する環境保全の立場からの意見 (4/28、東海旅客鉄道株式会社、国土交通大臣、環境大臣)
- ・「根室フレシマ風力発電所」建設に対する要望書 (5/19、北海道知事/日本野鳥の会、日本野鳥の会根室支部)
- ・海岸法改正に対する要望書 (5/20、国土交通大臣、参議院国土交通委員会)
- ・「大浦湾チリビシのアオサゴ群集」の天然記念物指定に関する要望書 (6/3、名護市長 /6 団体連名)
- ・濃飛横断自動車道計画(リニア関連工区)への要望書 (6/20、岐阜県知事、中津川市長)
- ・中池見湿地付近環境事後調査についての要望書 (7/10、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構/ウェットランド中池見、中池見ネット、ラムサール・ネットワーク日本)
- ・辺野古・長島の洞窟の視察を求める要望書 (7/18、名護市長、名護市教育委員会/北限のジュゴンを見守る会 チーム・ザン、沖縄・生物多様性市民ネットワーク)
- ・普天間飛行場代替施設建設事業に伴う臨時制限区域への立ち入り許可のお願い (7/23、第三海兵遠征軍司令官、米軍沖縄地域調整官)
- ・辺野古・大浦湾海域の埋め立て中止の要望書 (7/24、防衛大臣、沖縄防衛局長/北限のジュゴン調査チーム・ザン、沖縄・生物多様性市民ネットワーク)
- ・リニア中央新幹線補正評価書についての意見 (9/12、国土交通大臣、環境大臣、東海旅客鉄道株式会社)
- ・大雪国立公園内トムラウシ地区地熱発電計画中止の要望書 (9/13、十勝自然保護協会)
- ・普天間飛行場代替施設建設事業の環境監視等委員会の公開とジュゴン保全措置についての要望 (11/12、防衛大臣、沖縄防衛局長)
- ・普天間飛行場代替施設建設事業の環境保全措置についての要望 (11/12、沖縄県知事)
- ・多摩川河口干潟に影響を及ぼす羽田連絡道路の建設に対する意見書 (11/17、内閣総理大臣、国土交通大臣、神奈川県知事、川崎市長、羽田空港周辺・京浜臨海部連携強化推進委員会/日本野鳥の会、WWF ジャパン)
- ・濃飛横断自動車道計画(リニア関連工区) 路線近傍での希少猛禽類の調査の早期実施を求める要望書 (11/26、岐阜県知事、中津川市長)
- ・宮城県気仙沼市小泉海岸の環境保全を求める意見書 (12/1、内閣総理大臣、復興大臣、宮城県知事)
- ・日本の海洋生物多様性保全の制度の改善に関する要望書 (12/5、内閣総理大臣、環境大臣)
- ・普天間飛行場代替施設建設事業の設計概要変更承認申請書に対する 5 次質問の送付に対する要望書 (12/22 沖縄県知事/沖縄・生物多様性市民ネットワーク)
- ・種の保存法指定種アユモドキ生息地を保全し、京都スタジアム計画の見直しを求める意見 (1/8、京都府知事、京都府公共事業評価委員会)
- ・外来種被害防止行動計画(案)に関する意見 (1/13)
- ・「地域自然資産区域における自然環境の保全及び持続可能な利用の推進に関する法律」案に対する意見 (1/21)
- ・普天間飛行場代替施設建設事業の環境保全に関する要望 (1/23 沖縄県知事/沖縄・生物多様性市民ネットワーク)
- ・高知県安芸郡馬路村魚梁瀬地区の国有林を中心に分布するヤナセ天然スギの保護林拡張による保全と復元に向けての意見書 (2/10、四国森林管理局)
- ・ラムサール条約湿地「中池見湿地」を通過する北陸新幹線建設計画の変更を求める要望書 (3/5、環境大臣、国土交通大臣、鉄道建設・運輸施設整備支援機構北陸新幹線、中池見湿地付近環境事後調査検討委員会/ウェットランド中池見)
- ・環境監視等委員会の現地視察実施に関する要望書 (3/31、沖縄防衛局長、普天間飛行場代替施設建設事業に係わる環境監視等委員会委員長/沖縄・生物多様性市民ネットワーク)

別表2. 声明・パブリックコメント等の提出 (主に業務担当者名で提出、カッコ内は提出日、提出先)

- ・持続可能な自然エネルギーの導入促進に対する共同声明 (4/25、環境省/日本野鳥の会、WWF ジャパン)
- ・「国土強靱化基本計画(素案)」及び「国土強靱化アクションプラン(素案)」に関するパブリックコメント (5/20、内閣官房国土強靱化推進室)
- ・リニア中央新幹線に係る環境影響評価書に対する環境大臣意見に対するコメント (6/5)
- ・普天間飛行場代替施設建設に関わる公有水面埋立承認の判断基準に関する公開質問(要請) (6/6、沖縄県知事/16 団体連名)
- ・ニホンウナギの IUCN レッドリスト掲載に対するコメント (6/12)
- ・南アルプスと只見のユネスコエコパーク登録に対するコメント (6/12)
- ・中央新幹線(東京都・名古屋市間)に係る環境影響評価書に対する国土交通大臣意見へのコメント (7/18)
- ・ラムサール条約国別報告書(案)に対する意見 (7/24、環境省自然環境局野生生物課)
- ・辺野古海域へのジュゴン食痕調査のための立ち入り申請への回答に対する声明 (8/19)
- ・アメリカ合衆国駐日米国大使キャロライン・ケネディへ辺野古・大浦湾の環境保全を求める書簡 (9/16)
- ・国土交通大臣によるリニア中央新幹線事業認可に対する緊急声明 (10/17)
- ・辺野古・長島の利用許可申請 (10/31)

- ・共同声明 ラムサール条約にもとづく辺野古・大浦湾沿岸域の保全について（11/25、17 団体と連名）
- ・『阿波しらす大橋事業 吉野川河口域に与える影響の総合評価報告書（案）』への意見（2/6）
- ・〃沖縄県は沖縄防衛局に対して、大浦湾内での「アンカー設置」作業を直ちに中断し岩礁破碎の許可申請をするよう勧告を（緊急要請）（2/10、沖縄県民とすべての憂慮する市民有志一同）
- ・宮城県海岸保全基本計画の変更への意見（2/27）
- ・辺野古・長島の利用許可申請（3/11）
- ・東清二氏の「環境監視等委員会」の辞任関係機関に対応を求める声明（3/17）
- ・ラムサール条約登録中池見湿地にかかる北陸新幹線ルート of 環境事後調査検討委員会の結論に関するコメント（3/18）
- ・いのちの海とサンゴ礁を守れ 辺野古新基地建設に反対する NGO 緊急共同声明 ～日本政府は沖縄の民意に耳を傾け、作業の中止を～（3/25、FoEJapan ほか）
- ・普天間飛行場代替施設建設事業に関する農林水産大臣の沖縄県に対する効力停止発表への緊急声明（3/31）

別表 3. 委員の派遣（カッコ内は要請主体）

- ・林政審議会 及び 林政審議会地球環境小委員会（林野庁、継続）
- ・「保護林制度に関する有識者会議」委員（林野庁、新規）
- ・GEOC 運営委員会（環境省、継続）
- ・エコツーリズム推進に関する検討会（環境省他、継続）
- ・希少猛禽類等衝突リスク評価システム開発実証検討委員会（環境省、継続）
- ・国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）運営部会・幹事会・連携会議（UNDB-J、継続）
- ・日本 MAB 計画委員会（日本 MAB 計画委員会、継続）
- ・生物多様性委員会（北海道森林管理局、継続）
- ・大雪・日高森林生態系保護地域保全管理委員会（北海道森林管理局、継続）
- ・愛知目標 3 委員会（特定非営利活動法人野生物保全論研究会（JWCS）、継続）
- ・只見ユネスコエコパーク支援委員会（只見町、新規）
- ・只見ユネスコエコパーク推進協議会（只見町、新規）
- ・みなかみユネスコエコパーク登録に伴う支援業務（群馬県みなかみ町、新規）
- ・尾瀬国立公園シカ対策アドバイザー会議（環境省、継続）
- ・尾瀬国立公園快適利用の促進（利用分散等）に関する小委員会（環境省関東地方環境事務所、継続）
- ・尾瀬・至仏山保全対策会議（尾瀬保護財団、継続）
- ・東京都シカ保護管理計画検討会（東京都、継続）
- ・東京都鳥獣害対策検討委員会（東京都、継続）
- ・新宿区みどりの推進審議会（新宿区、継続）
- ・小笠原森林生態系保護地域保全管理委員会（関東森林管理局、継続）
- ・小笠原新規観察フィールド設定アドバイザー（林野庁、継続）
- ・小笠原希少昆虫類連絡会議（環境省、継続）
- ・アカガシラカラスバト保護増殖検討会（環境省、継続）
- ・横須賀市自然環境アドバイザー（横須賀市、継続）
- ・林業と希少種の調整に関わる委員会（関東森林管理局、継続）
- ・保護林モニタリング委員会（関東森林管理局、継続）
- ・奥会津森林生態系保護地域保全管理委員会（関東森林環境局、継続）
- ・富士山・丹沢緑の回廊モニタリング委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・長野県希少野生動物保護対策専門委員会（長野県、継続）
- ・生物多様性絆ネット発起人監事（信州生物多様性ネットワーク）
- ・木曾地方の温帯性針葉樹林の保護・復元に向けた取組検討委員会（林野庁中部森林管理局、継続）
- ・中池見保全・活用計画策定委員会（敦賀市、新規）
- ・ラムサール条約湿地・中池見湿地の保全活用政策策定のための委員会（敦賀市、新規）
- ・ヤナセ天然スギの今後の取り扱いに関する検討委員会（林野庁四国森林管理局、新規）
- ・四万十生物多様性の町づくり検討委員会（高知生態系トラスト協会、継続）
- ・綾ユネスコエコパーク専門委員会（綾町、継続）
- ・奄美群島森林生態系保護地域保全管理委員会（林野庁九州森林管理局、継続）

別表4. 催事等への後援・協力・職員派遣等 (カッコ内は主催者、開催日)

[共催]

- ・国際シンポジウム「奇跡の海」を未来の子どもたちへ!! ～カンムリウミスズメと上関の生物多様性(上関の自然を守る会、8/16-18)
- ・参議院 緊急院内集会「自然環境保全とリニア建設は両立できる？」(福島みずほ事務所、9/12)
- ・生物多様性条約締約国会議(COP12:韓国)のCEPAフェアにおける「UNDB DAY」開催 (UNDB 日本委員会(UNDB-J)関係者、生物多様性条約事務局主催、環境省、IUCN-J、10/14)
- ・緊急シンポジウム「リニア新幹線の工事認可抗議集会」(リニア沿線市民ネット、10/17)

[後援・協力]

- ・大崎の森早朝観察会(ソニー・明電舎、4/22・11/5)
- ・首都圏近郊里山/谷戸田サミット「農で培う里山資本の循環」(首都圏近郊里山/谷戸田サミット実行委員会、4/26)
- ・外来種・研修会(愛知県自然観察指導員連絡協議会、4/29)
- ・第88回国展(国画会、5/1~12)
- ・「大震災から学ぼう 山・里・海のつながりを未来まで」 生物多様性研究会(茅ヶ崎自然連合、5/10)
- ・環境女子会☆「東北の防潮堤から考える“海岸法”」(環境女子会☆ (NACS-J スタッフが実行委員として参画)、5/12)
- ・大崎の森生物多様性モニタリング調査の実施と監修(ソニー、5/8・6/3・1/26・2・16・3/9)
- ・「国際生物多様性の日」記念 みどりの自然観察会 in 日比谷公園(自然観察指導員東京連絡会、5/17)
- ・緑のシンポジウム 緑地の“新・東京スタンダード”を考える(三井住友海上火災保険株式会社、5/20)
- ・「辺野古新基地および高江ヘリパッドの建設に強く抗議し計画の撤回を求める環境団体の声明と要請」への賛同(ラムサール・ネットワーク日本、5/22)
- ・第2回国際照葉樹林サミット in 屋久島(同実行委員会、6/7)
- ・企画展「高槻の生物多様性 知ってた?めっちゃいるんやで」(芥川緑地資料館、6/28~10/13)
- ・第17回(2015)日本水大賞(日本水大賞委員会、7/7-10/31)
- ・第5回コウノトリ未来・国際会議(同実行委員会、7/18-20)
- ・第31回日本環境会議東京大会・35周年記念シンポジウム(日本環境会議(JEC)、7/19)
- ・中津川坂本のハナノキ湿地保全を考えるシンポジウム(ハナノキ湿地の保全を考える会、7/21)
- ・平成26年度 夏休み子供自然観察教室(利根沼田自然を愛する会、7/27)
- ・市民公開講座「絶滅危惧種アユモドキー東アジア府度の象徴・その危機と保全」(日本魚類学会、8/2)
- ・環境女子会☆鎌倉フィールド編(海岸法)(環境女子会☆ (NACS-J スタッフが実行委員として参画)、8/9)
- ・第6回プロジェクト未来遺産への見沼たんぼ推薦(未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会、8/12)
- ・エコキッズ探検隊2014自然観察会&フォトフレームづくり(ニコン、8/18)
- ・ソニーファミリーデー自然観察会(ソニー、8/22)
- ・シンポジウム「生物多様性 COP10 から4年 -COP12 (2014@韓国平昌) に向け愛知ターゲット達成を地域から考える」(「よみがえれ長良川!よみがえれ伊勢湾!」実行委員会、国連生物多様性の10年市民ネットワーク(UNDB 市民ネット)、9/7)
- ・大崎の森鳴く虫とコウモリ観察会(明電舎、9/10)
- ・東北ボランティアバス「小泉砂浜調査隊」便(主催:九鬼ツーリスト、企画:(公財)日本自然保護協会、NPO法人かながわ311ネットワーク9/19~9/21)
- ・サニエルおやこネイチャーツアーIN 宮崎県綾町(サニクリーン、9/20-21)
- ・H26年度特別展「里山いま昔 一人と自然 あらたな絆を求めて」(岐阜県博物館、9/12~11/16)
- ・国際ザリガニ学会・日本甲殻類学会合同国際学会(IAA&CSJ Jont International Conference on Coustacea)(日本甲殻類学会、9/20-21)
- ・COP12(生物多様性条約第12回締約国会議、10/6~17)
- ・シンポジウム「森林と食のルネサンスー創る・楽しむ・活かす 新たな山の業ー」(「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会、10/11)
- ・大崎の森リーフレット秋冬版の作成(ソニー・明電舎、1,000部印刷)
- ・植物分類研修会(愛知県自然観察指導員連絡協議会、10/13)
- ・韓国MOP7・COP12報告会(食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク、10/25)
- ・第2回国立・国定公園内における太陽光発電施設設置のありかた検討委員会(環境省、10/28)
- ・センスオブワンダー観察会(ソニーグループ9社、11/8)
- ・海辺の環境教育フォーラム2014in 沖縄(同実行委員会、11/14-16)
- ・親と子の環境教室(ノエビアグリーン財団、11/22)
- ・「TOKYO GREEN 2020」推進会議キックオフ・フォーラム(「TOKYO GREEN2020」推進会議、11/25)
- ・枚方市「自然保護を考える講習会」(枚方市、12/20)
- ・COP12の成果と地域戦略などについて(日本福祉大学知多半島総合研究所、1/16)
- ・ストップ辺野古・奄美フォーラム(自然と平和を守る奄美郡民会議、1/17)

- ・埋め立て土砂搬出反対緊急アクション（自然と文化を守る奄美会議、1/17）
- ・第14回草津市子ども環境会議（同実行委員会、1/31）
- ・講演会「生物多様性の一端を知る！聞く！語る！－“絶滅危惧種 vs 特定外来生物”（NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会、2/1）
- ・第14回自然環境シンポジウム「これでいいのか！外来種問題 part II」（酒匂川水系の環境を考える会、2/15）
- ・2014年度KiNOA インタープリテーション（KiNOA、2015/2/21～22）
- ・2015九州環境教育ミーティング in 岡垣（九州環境教育ミーティング、2/28～3/1）
- ・第62回日本生態学会大会 モニタリングサイト1000の10年の成果を伝える企画集会、3/20）
- ・展示 志津川湾展（3/21～22）

[職員派遣等]

- ・藤野リニアトークライブ（けんじゅうの会、4/5）
- ・アースデイ東京2014 トークステージ（ネイチャー・プロ編集室、4/19～20）
- ・自然保護連続講座「市民モニターによる地域の生きもの調べ入門」（昭島環境フォーラム、4/20）
- ・リニア問題を考える品川の会 講演（リニア市民ネット東京、4/20）
- ・南アルプス市ユネスコエコパーク職員説明会（南アルプス市、4/22）
- ・環境講演会「守りたい辺野古の豊かな環境－大浦湾のサンゴは訴える－」（NPO 法人エデンプロジェクト、4/29）
- ・「子ども小泉学」講座第2回「鎮守の森のひみつを調べてみよう！」（東北大学大学院生命科学研究所生態適応センター、5/18）
- ・放送大学面接授業「赤谷プロジェクトにおけるNACS-Jの役割」（放送大学群馬学習センター、5/18）
- ・生物多様性院内集会 講演（CBD市民ネット、5/22）
- ・講演「愛知目標について」（電機電子4団体生物多様性WG、5/28）
- ・第2回国際照葉樹林サミット in 屋久島講演（同実行委員会、6/7）
- ・ソフトコーラル保全国際シンポジウム・辺野古問題について講演（6/10）
- ・「森林生態系スペシャリスト養成研修」講師（林野庁関東森林管理局、6/19）
- ・講義「日本の森と赤谷プロジェクトの取り組み」（群馬県立利根実業高校、6/20）
- ・環境政策論「日本の自然保護運動とNGOの役割」講師（明海大学、6/26）
- ・赤谷プロジェクトとの連携に関する講演（みなかみバイオマスエネルギー推進協議会、7/13）
- ・講師「自然保護NGOとしてのNACS-Jの役割、赤谷プロジェクトの取り組み」（東京農工大学、7/18）
- ・南アルプスを守る集会（大鹿村リニア問題を考える会、7/20）
- ・水資源機構環境研修講師（7/28）
- ・新宿区みどりの推進審議会（新宿区、9/1, 2/4）
- ・リニアを問う市民講座名古屋（リニア市民ネット愛知、9/6）
- ・公害対策・環境保全委員会における勉強会講師（日弁連、9/11）
- ・院内集会：自然環境保全とリニア建設は両立できるか（福島みずほ事務所、9/12）
- ・全国ギャザリング2014 企画④「Go→Future～未来への歩み～」講演（エコリーグ、9/14）
- ・ユネスコエコパークを活用したESD教材開発検討会議（横浜国立大、9/20）
- ・2014年度第2回自然共生社会分科会研究会（環境パートナーシップclub、9/17）
- ・シンポジウム「オオタカ希少種指定解除の課題」（日本野鳥の会、オオタカ保護基金、10/4）
- ・講演「辺野古を取り巻く環境問題の概略」（日本平和大会実行委員会、10/4）
- ・尾瀬の自然保護に関する講演及び現地案内（日本環境ジャーナリストの会、10/15、18-19）
- ・中央区総合環境講座（一財）省エネルギーセンター（10/22）
- ・講演 農業環境シンポジウム「外来牧草をめぐる諸問題」（農業環境技術研究所、10/25）
- ・辺野古プレゼン（太陽と地球と生命のつながりを祝い 平和のタネを蒔く祭” 太陽の市”、10/26）
- ・「キャリア形成論」講義（麻布大学、10/27）
- ・国立・国定公園内における太陽光発電施設装置のあり方検討委員会ヒアリング（環境省国立公園課、10/28）
- ・講演 環境女子会☆「ダム撤去、緑のインフラが始まっている！ 欧米、そして日本の川を語ろう～河川法（10/30）
- ・モニタリングサイト1000 里地調査報告会（岐阜県立博物館、11/3）
- ・ESDに関するユネスコ世界会議、分科会地域のステークホルダーをESDでつなげよう（国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）、11/12）
- ・「わくわくアートコンテスト」審査員（高尾の森わくわくビレッジ、11/16、12/13）
- ・白山ユネスコエコパークリレーシンポジウム講演（白山ユネスコエコパーク協議会、11/15-16）
- ・江東区ネイチャーリーダー講座～話し合おうこれからのこと～（11/21）
- ・大草谷津田スキルアップ講座講評（千葉市、11/26）
- ・川崎市民アカデミー講演（川崎市生涯学習財団、11/27）
- ・第2回ユネスコエコパークネットワーク会合（11/27-28）
- ・帯広の森づくり40周年記念 ティーチ・イン（帯広市、11/30）
- ・金沢大学勉強会講演（白山自然利用エネルギー利用研究会、12/10）
- ・横浜国立大学2014秋季非常勤講師「自然環境を扱う実務とキャリアプランニング」（12/17）

- ・「生物多様性の本箱」寄贈贈呈式 (UNDB-J、1/27～1/28)
- ・「プロジェクト未来遺産・登録証伝達式」(未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会、2/1)
- ・アカミミガメ意見交換会 (環境省、2/20)
- ・九州自然協議会 in 綾 研修講師 (2/21)
- ・シンポジウム「企業が語るいきものがたり」講師 (三井住友海上、2/24)
- ・日本地理学会シンポジウム (日本地理学会自然保護問題研究グループ、3/29)
- ・みのおエフエム・タッキー地球レポート (4/3、5/1、6/5、7/3、8/7、9/4、10/2、11/6、12/4、1/8、2/5、3/5)
- ・第10回GISコミュニティフォーラム生物多様性コンザベーションGISセッション (ESRI ジャパン、5/30)
- ・第5回自然公園研究会 (公益財団法人日本交通公社、6/7)
- ・まちづくりビジョン策定委員会 (みなかみ町、7/18)
- ・日本ジオパーク南アルプス大会分科会E (日本ジオパーク南アルプス大会実行委員会、9/23)
- ・International Symposium on community-based forest management、総合地球環境学研究所、3/3)
- ・町づくりビジョン報告会 (みなかみ町、3/25)

[原稿執筆]

- ・岩波書店『科学』10月号 / 辺野古の強制的埋立進行の問題とジュゴンの予想以上の活動について
- ・『環境技術会誌』No.155、156、157、158
- ・毎日新聞連載コラム「生き物のまなざし」
- ・特非) 国土利用再編研究所
- ・丸の内さえずり館・WEB記事「知恵ブクロウ」(三菱地所・丸の内さえずり館)
- ・毎日新聞連載コラム「自然は宝箱」(毎日新聞社・4/11・5/9・6/6・7/4・8/1・8/29・10/3・10/31・11/28・12/26・1/30・2/27・3/27)
- ・文部科学省日本/ユネスコパートナーシップ事業『ユネスコエコパークを活用したESD教員向けガイドブックー自然と人間の共生をめざしてー』横浜国立大学編、綾ユネスコエコパークの自然と人々の暮らしP150-189
- ・照葉樹林だより41号(てるはの森の会、3/31)

別表 5. NACS-J 自然観察指導員講習会

NO	開催日	開催地	会場	共催団体	登録者数
486	5/24～25	東京都	高尾の森わくわくビレッジ	NACS-J 自然観察指導員東京連絡会 (NACOT) ・五洋建設株式会社・イーリバースドットコム株式会社	60
487	6/21～22	山梨県	山梨県立愛宕山少年自然の家	山梨県立愛宕山少年自然の家	45
488	7/5～6	岩手県	大船渡市立博物館	自主主催 (協賛) 株式会社日清製粉グループ本社	39
489	11/1～2	新潟県	トキ交流会館	伝統文化と環境福祉の専門学校	25
490	7/26～27	東京都	かんぼの宿青梅	自主主催	39
491	8/30～31	群馬県	中之条町六合柔剣道場	中之条町	35
492	9/6～7	三重県	四日市立少年自然の家	自然観察指導員三重連絡会・三重県環境学習情報センター	63
493	9/13～14	栃木県	塩原温泉ビジターセンター	那須塩原市・塩原温泉ビジターセンター運営協議会	37
494	9/20～21	鳥取県	鳥取県立大山青年の家	自然観察指導員鳥取連絡会・鳥取県立大山青年の家	36
495	9/27～28	千葉県	千葉県立手賀の丘少年自然の家	千葉県自然観察指導員協議会・千葉県立手賀の丘少年自然の家・東邦大学	66
496	10/4～5	京都府	岩清水八幡宮青少年文化体育研修センター	京都府・NPO 自然観察指導員京都連絡会	67
497	10/18～19	大分県	九重青少年の家	大分県自然観察連絡協議会	59
498	10/25～26	埼玉県	埼玉県立小川げんきプラザ	NPO 法人自然観察指導員埼玉	58
499	11/15～16	神奈川県	富士ゼロックス塚原研修所	富士ゼロックス株式会社	58
500	3/21～22	東京都	かんぼの宿青梅	自主主催	54

別表 6. NACS-J 自然観察指導員研修会

NO	開催日	開催地	テーマと会場	共催団体	参加者数
158	9/6・7	愛知県	トンボをテーマに生物多様性を伝える観察会をしよう! / 庄内緑地	愛知県	22
159	11/8・9	東京都	ネイチャア・フィーリング	独立行政法人 森林総合研究所 多摩森林科学園	21
—	11/8	長野県	地域の自然を理解しよう (プレ研修会)	自然観察指導員長野県連絡会	15

別表 7. セミナー「観察会の道具箱」

開催日	テーマと会場	講師	参加者数
1/30	明日から役立つ生態学 / NACS-J 会議室	後藤 章 (明星中学高等学校講師)	27
2/7	わかりやすい! おもしろい! 自然観察会で絵本を使おう / 日比谷公園・東京都公園協会共催	植原 彰 (NACS-J 理事)	30

別表 8. NACS-J 市民カレッジ (略称: Nカレ)

開催日	テーマと会場	講師	参加者数
シリーズ 4 江戸・東京 緑のタイムトラベル 春コース (於: NACS-J 会議室、日比谷公園～皇居周辺)			
6/13	江戸・東京の緑の変遷	亀山章 (NACS-J 理事長)	19
6/14	日比谷公園から江戸城跡をめぐるエクスカージョン	〃	12
シリーズ 5 IUCN レッドリストの ABC ～夏の更新発表に向けてレッドリストを学ぼう～ (於: NACS-J 会議室)			
6/11	IUCN レッドリストの ABC ～夏の更新発表に向けてレッドリストを学ぼう～	道家哲平 (NACS-J 国際担当)	23
シリーズ 6 絶滅危惧種ウナギからのメッセージ (於: 三菱商事 MC FOREST)			
7/4	ウナギ学入門～守りたいならまずは知る～	海部健三 (中央大学法学部 助教)	36
7/11	漁業資源問題入門～ウナギが教えてくれる食卓の危機～	井田徹治 (共同通信社 編集委員)	37
7/18	レッドリスト入門～ウナギも指定された絶滅危惧種のいろは～	道家哲平 (NACS-J 国際担当)	29
シリーズ 7 世界遺産、旅をするなら知っておきたい 10 のコト (於: 三菱商事 MC FOREST、NACS-J 会議室)			
8/6	世界遺産はなぜ人気が出るの?	岡野隆宏 (環境省、元 鹿児島大学 特任准教授)	37
8/7	屋久島に見る「世界遺産」の before after future	〃	37
8/20	最新! 世界遺産委員会レポート～注目の世界遺産は?	吉田正人 (NACS-J 専務理事、筑波大学大学院教授、IUCN-J 会長)	34
8/21	陸から海に広がる世界遺産 ～知床・小笠原から奄美・琉球諸島へ～	〃	25
シリーズ 8 コケの世界 (於: 三菱商事 MC FOREST、明治神宮)			
9/26	コケを知る	古木達郎 (千葉県立中央博物館)	34
12/7	コケをみる	〃	29
シリーズ 9 2020年愛知ターゲット これまでの4年 これからの6年 (於: 三菱商事 MC FOREST)			
10/21	COP10 の熱い決議と、愛知ターゲットのこれまでの4年を振り返る	道家哲平 (NACS-J 国際担当)	26
10/28	COP12 の最新動向と、愛知ターゲットのこれからの6年を考える	〃	37
シリーズ 10 江戸・東京 緑のタイムトラベル 秋コース (於: 三菱商事 MC FOREST、皇居～北の丸公園)			
11/14	東京の自然と文化の歴史にせまる!! ～自然保護と文化財保護	亀山章 (NACS-J 理事長)	18
11/15	江戸城址から北の丸公園をめぐるエクスカージョン	〃	13
シリーズ 11 イヌワシの舞う日本の森を未来へ (於: 三菱商事 MC FOREST)			
11/28	イヌワシの舞う日本の森を未来へ	山崎亨 (アジア猛禽類ネットワーク 会長、赤谷猛禽類 WG 座長)	42
シリーズ 12 美しい日本の山を科学する (於: 三菱商事 MC FOREST)			
12/16	高い山はなぜ美しいのか	辻村千尋 (NACS-J 保護研究部)	42
12/17	低い山はなぜ美しいのか	〃	36
シリーズ 13 酒と肴と日本の風土 (於: 三菱商事 MC FOREST)			
1/29	酒と肴から風土を探る	青木賢人 (金沢大学地域創造学類環境共生コース 准教授)	44
シリーズ 14 みんなで学ぼう! 生物多様性と世界遺産 in 奄美! (於: 奄美市 AiAi ひろば)			
2/6	・世界遺産はなぜ人気が出るの? ・生物多様性ってなんだろう?～いま、改めて知る、生物多様性という言葉の奥深さ～	岡野隆宏 (環境省、元鹿児島大学 特任准教授)、 道家哲平 (NACS-J 国際担当)	48
シリーズ 15 大震災を経て…東北の自然環境と地域づくり～宮城県南三陸町を舞台に～ (於: 三菱商事 MC FOREST)			

2/20	南三陸を自然史の学び舎に	平井和也（南三陸ネイチャーセンター友の会会員、海の自然史研究所ボランティアエデュケーター）	38
シリーズ 16 酒造りは里づくり（於：三菱商事 MC FOREST）			
3/17	酒造りは里づくり～CSR そして CSV ～	平澤聡（朝日酒造株式会社、NACS-J 自然観察指導員）	46

別表 9. 主催シンポジウム・セミナー等

開催日	タイトル	会場	参加者数
5/31	シンポジウム「沖縄の自然のこと～海・陸・人の関わり」（共催：沖縄・生物多様性市民ネットワーク）	那覇市	80
6/6	【アオサング勉強会】大浦湾のアオサングについて学ぼう（後援：じゅごんの里）	名護市役所久志支所	40
7/3-7/29	企画展 草原の小さな住人カヤネズミ -身近な自然を見つめ、調べ、支えていく（共催：公益財団法人東京動物園協会多摩動物公園、全国カヤネズミ・ネットワーク／後援：環境省生物多様性センター）	多摩動物公園	—
7/19	カヤネズミシンポジウム「守りたい、カヤネズミのすむ草原」（共催：公益財団法人東京動物園協会多摩動物公園、全国カヤネズミ・ネットワーク／後援：環境省生物多様性センター）	多摩動物公園	115
8/23	緊急国際シンポジウム～危機に瀕する沖縄のジュゴンを守るために、アジアのジュゴン保護の現場から学ぶ～	名桜大学	40
8/30	どうする!?! ミドリガメ ～ペットと外来生物の規制のあり方を考える～（共催：NPO 法人生態工房、日本カメ自然誌研究会）	法政大学市ヶ谷キャンパス	100
9/15	お話し会「辺野古の海の自然のこと」（共催：ジュゴン保護キャンペーンセンター（SDCC））	NACS-J 会議室	20
9/20	気仙沼市小泉海岸・砂浜いきもの調査（経団連助成）	小泉海岸	40
10/18	自然の恵み再発見！流山カントリーウォーク in 新川耕地（共催：流山市、流山カントリーウォーク実行委員会）	新川耕地（千葉県流山市）	40
10/19	チャリティー・トンボ観察会 ～豊かなトンボ相の秘密を見に行こう！～	中池見 人と自然のふれあいの里	28
10/19	赤谷の森で「森のめぐみの音さんぽ♪」	道の駅 たくみの里	30
10/22	自然の恵み再発見！流山カントリーウォーク in 利根運河（共催：流山市、流山カントリーウォーク実行委員会）	利根運河（千葉県流山市）	60
11/3	千草ヶ原モニタリング調査観察会	千草ヶ原（茨城県つくば市）	30
11/24	そうふけっぱら活動報告会	印西総合病院	30
12/21	シンポジウム「ラムサール条約湿地でひらく地域の未来」（協力：ウェットランド中池見、中池見ねっと、ラムサール・ネットワーク日本、後援：日本湿地ネットワーク、日本国際湿地保全連合、日本野鳥の会、世界自然保護基金ジャパン）	YMCA アジア青少年センター	70
1/2～2/8	企画展「市民が見つめ、調べ、支えてゆく 身近な里やま」～モニタリングサイト 1000 里地調査の取り組みと 5 年間の成果～	北九州市立いのちのたび博物館	—
1/18	シンポジウム「人と人がつなぐ全国調査 ～ データが紐解く里やまの姿 ～」（主催：環境省自然環境局生物多様性センター、共催：北九州市立いのちのたび博物館）	北九州市立いのちのたび博物館	60

別表 10. 日本自然保護大賞

開催日	タイトル	会場	応募者数
3/8	日本自然保護大賞 授賞式・活動発表会（協賛：経団連自然保護協議会／後援：環境省・国際自然保護連合日本委員会（IUCN-J）・国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）・自然保護憲章普及協議会）	日比谷コンベンションホール	112